

【解答例と出題意図】

1

解答例

(1)

まちづくり・地域おこしを展開していく上では、まずそのまち・地域に潜在・顕在する資源の発見・活用が重要・有効だろう。歴史・文化・自然・人間・生活など地域環境に内在する多様な要素を地域資源（地域の宝もの）として見つめ活用していくことが重要である。その上で芸術・アートは、こうした資源の新たな評価・活用方法を見出してくれることが期待される。こうした資源（宝もの）としての発見・活用には、地域住民はじめ様々な人たちの関与が効果を発揮する。芸術・アートはこうした人々の能動的主体的な関りを促す力がある。様々な世代、属性など異なる多様な視点から地域の宝ものを見つめることがまちづくり・地域おこしで有効だろう。同時に、芸術活動・成果を通じた地域経済効果を高めることも期待される。今日、観光もまちづくりの大きなテーマになっているが、その地域と相乗効果を持たせた芸術・アートを目的にやってくる人々も期待される。ここには来場者がお金を地域におとしていくことも期待されるが、それと共にそのまち・地域での体験を全国他地域、人々に発信してくれる効果への期待もある。SNSなどが普及している今日、こうした効果は見逃せない。そのことによって、例えば従来は誰にも知られていなかったような町が独自の個性ある存在にもなり得よう。そうした外部からの評価が、翻るとその地域に暮らす人々の自信や誇り、その地域にくらすアイデンティティを育んでいくことも期待される。

(2)

人口5万人ほどの都市郊外に広がる田園地帯において演劇をテーマにしたまちづくりを考えよう。ここでの演劇には、音楽、絵画など多様な芸術要素を盛り込んでいく。まず先の地域資源の発見という考えから、対象地区の宝もの（資源）を多様な目線から検討していきたい。一般的な参加者を募り、まち歩きや景観評価などを企画する。勿論、食・歴史・自然などこの地域の既存情報も整理・活用する。一般参加者に加え、小中学校に協力してもらい、総合学習などの一コマとして同様に地域の宝を発見する授業を組んでもらい実施することも有効だろう。一方で、子供世代に限らず高齢者世代の視野も面白いと思う。老人大学をはじめ母体となる団体に呼び掛けるなどして、高齢者による過去・現在の資源を提示してもらおう。

こうした多様な資源を如何に活用していくかについては、ワークショップなどの活動が有効になろう。そのプログラムは関係者と共に考え、企画、実施していくことが大

事だが、例えばその中で「演劇」として宝物の活用を表現することが考えられる。集まった情報の整理と共に、それを活かした物語を作成する。これについては多くの参加ではなく、コアとなるスタッフ、あるいは興味を持つメンバーが中心になって取り組んでよいと思う。

また物語には、絵画や音楽など多様な要素を盛り込みたい。そのことで絵が得意な人、歌を歌うのが好きな人、楽器が上手な人など、様々な人たちに協力してもらいたい。自らの得意なことが地域の中で表現されるならば、参加者も積極的に協力してくれるのではないだろうか。そこで生まれる成果も勿論だが、そのことへ向けてみなどで協力したという経験そのものが、この地域の世代を超えた力になると思われる。

こうして生み出された独自性・創造性ある演劇を、当該地域を舞台に実施していく。出来れば背景の美しい屋外空間を設定したい。舞台としての魅力と共に、今日のコロナ禍にある現在、室内空間以上に使いやすいと思われる。その実施内容は記録しておき、SNS等で発信してもらおう。その反響も整理し、今後の検討材料となろう。

まずは初年度の実施が重要だが、できればその活動を持続的なものにする必要もあろう。真に有効な地域のアートは継続的な取り組みの中で地域に定着していると共に、地域外にも多くのファンを育成していくのではないだろうか。そうした一定の年月も見越した持続活動の中で真のまちづくり・地域おこしが根付いていくことが期待される。

出題意図

(1) は、今日、各地のまちづくり・地域おこしの中で芸術・アートが取り上げられることが見られるが、その意義や効果について問うものである。内容は様々であろうが、地域資源の発見・活用、地元住民の参加・協力、外部関係者の関与、来場者と効果、手法、経済効果、維持・管理などへの説明が期待される。このことは、芸術・アート分野に留まるものではなく、まちづくり・地域づくり全般にも関わることであろう。

(2) は、上記の内容を具体的に思考・説明できるかを問うている。

2

解答例

- ① 北海道の広大な面積を考え、札幌市や旭川市、函館市といった中核となる都市間を結ぶ道の骨格となる部分、中核都市や地域の中心都市と周辺市町村を結ぶ広域的な部分、市町村内や周辺エリアでの日常生活圏を結ぶ部分といったように、移動の規模によって公共交通網のあり方を考える。そこに、鉄道や航空、バスなどの交通手段をそれぞれの強みや地域の実情に応じて割り当てていく。なお、JR貨物など物流についても考慮する必要がある。(200字)

- ② ①の実現に向けて、それぞれの主体がどのように考え、行動するかが重要である。まずは、公共である国、道、道内市町村と道民との役割分担をどのように考えるか、道民が公共の検討した政策を適切に判断できるように、正しくわかりやすい情報を出すことが、特に重要である。

国は、道内の公共交通網の再構築に向けて、使用可能な制度の提案と運用、財政制度の改正を検討する。道は、特には骨格部分と広域的な部分についての役割を担い、国と市町村の間に入って施策の調整、必要な財源の一部を確保する。市町村は、日常生活圏の移動、骨格や広域部分との接続についての役割を担う。道民は、自家用車にのみ頼った生活と一部または全部を公共交通に頼る生活を選択できる状況にあり、言い換えると、社会の中で合理的か利己的かという判断が自由にできる状況にあるが、利己的選択ばかりだと社会にとって非合理的な結果になりうることをふまえた判断をする必要がある。(398字)

出題意図

総合政策研究科が有する行政、経済、地域社会などにおける政策に関して、時事的な問題となっている事例を取り上げ、必要となる知識や考え方を示すことができるかを見ており、公共政策を策定・評価できる人材か、専門的かつ学際的な知識を駆使できる人材かどうかを確認することが、本題の出題意図である。

3

解答例

- (ア) 課題文①②の著者は、自身の実践している芸術（演劇）活動が地域にとってどのような意義があるとそれぞれ考えていますか。それぞれ200字ずつでまとめなさい。

課題文①

課題文①の筆者は、地域で芸術（演劇）活動をすることが、地域の誇りを醸成することにつながると考えている。筆者の考える演劇活動は、日常生活を支配している価値観を相対化する実践でもある。ここでの支配的な価値観とは、市場的価値を優先する考え方や、芸術分野では東京が一流であるという価値観などであり、筆者は演劇を広めることで、地域の人びとが、地域の個性とその良さを理解しやすくなることにつながると考えている。(199字)

課題文②

課題文②の筆者が考える「演劇」とは、「人間の生きる姿を描く芸術」であり、「社会的な判断力を育成する媒体」であるという。筆者は、八雲国際演劇祭の準備段階か

ら地域住民がかかわり、演劇にふれることで、「地域力」が育つとっている。地域住民が演劇にふれることで、暮らしにかかわる想像力、物事の本質を見抜く洞察力（インサイト）などが身につく、結果「地域力」が育まれていくというのである。(188字)

- (イ) 以下の課題文①と②を読み、芸術による地域づくりのポイントをあなたはどのように考えますか。課題文でとりあげられている事例、あなたの知っている地域づくりの事例、あなた自身の地域での経験などを踏まえて、600字以内で論じなさい。

芸術による地域づくりというと、地方で行われている芸術祭などが思い浮かぶ。よく知られているところでは、瀬戸内国際芸術祭などが挙げられよう。しばしばこのような地域社会でおこなわれている芸術祭は、観光まちづくりの文脈で語られることが多かったように思う。観光まちづくりの文脈においては、地域の歴史に関連するにしろ、しないにしろ、芸術作品をつくり（あるいは芸術祭などを開催し）観光資源とすることで、観光客を増やし、地域経済を活性化させることが、芸術のひとつの重要な効果としてみなされてきた。また、芸術を楽しむのは観光客であるという前提があったように思う。しかし、課題文①②のような芸術と地域の結びつきをみると、観光まちづくりの文脈とは一線を画した芸術の地域への影響を視野に入れてみると考えられる。

課題文①②にあげられている、地域に対する芸術（演劇）の役割とは、地域の人びとを巻き込みながら、演劇を通して人の感性や価値観に直接訴えかけ、変容をもたらそうとしていることである。これらの芸術による地域づくりは、産業主義的社会において失われたとされる人間性を取り戻すような活動のようにも思える。地方で幸福に生きるための価値観や考え方を想像し、構築するきっかけをもたらすものとして、芸術を位置づけていることが課題文①②にみられる芸術による地域づくりのポイントであると考えられる。(581字)

* 課題文でとりあげられている事例、あなたの知っている地域づくりの事例、あなた自身の地域での経験、のいずれかを扱ってよい（すべてを扱う必要はない）。